

社会人向け大学院
都市経営研究科
特別公開シンポジウム案内
(22年向け夏季)参加自由・無料

GSUM
Graduate School of
Urban Management

大阪市立大学大学院
**都市経営
研究科**

6/19 土
2021 15:30
-17:30

都市行政コース特別シンポジウム

「自治体における子ども支援とコミュニティ施策」

シンポ開催形態はオンライン。サイト <https://forms.office.com/r/6UpgLRNygJ> の「都市行政④」から必ずお申し込みください。こちらからご連絡します。連絡がいかない場合・お問合せは goishi@osaka-cu.ac.jp

【趣旨】本シンポジウムでは研究科の修生が研究成果を報告するとともに、子ども支援について、福祉だけでなく、教育や就職支援など幅広い視点で議論し、また自治体におけるコミュニティ施策の文脈から見た場合にどう位置付けられるのかを考えていきます。また、社会福祉で多数の著書のある埋橋先生にコメントを頂きます。【報告者】能島裕介氏(尼崎市理事・修生)、塩川悠氏(社会福祉士・修生)、畑中久代氏(cocokara 代表・元自治体職員・修生)【コメントータ】埋橋孝文氏(同志社大学教授)【司会】五石敬路



【コメントータ】埋橋孝文氏(同志社大学社会学部教授、放送大学客員教授)社会政策・社会保障論。『子どもの貧困／不利／困難を考えるⅠ、Ⅱ、Ⅲ』(共編著、ミネルヴァ書房、2015年、2019年)『貧困と就労一自立支援再考』(共編著、法律文化社、2019年)など。



【報告者】能島裕介氏(尼崎市理事・修生)大学在学中に阪神・淡路大震災で被災した児童等の支援活動を展開。銀行勤務を経て、青少年支援を行うNPO法人プレーンヒューマニティを設立。理事長に就任。2013年、尼崎市参与に就任。2018年、大阪市立大学大学院創造都市研究科修士課程修了。2019年より尼崎市理事(子ども青少年政策担当)。



【報告者】畑中久代氏(cocokara 代表・元自治体職員・修生)2018年3月まで自治体職員として協働のまちづくりや地域分権推進などコミュニティ施策を担当。退職後はホワイトボード・ミーティング®認定講師として、全国各地で自治体職員や市民活動者などを対象にファシリテーション研修などを実施。その他、大学非常勤講師、NPO法人理事など。



【報告者】塩川悠氏(社会福祉士・修生)2020年修了生。社会福祉行政職員として、生活保護ケースワーカー、生活困窮者自立支援事業を経て、高校中退予防事業を実施。高校生と出会ううちに、教育から職業への移行を支える社会政策が必要と考えようになり、産官学が連携した実践型キャリア教育について研究した。



【司会】五石敬路(都市経営研究科准教授)アジア開発銀行研究所、財団法人東京市政調査会を経て現職。昨年度、修生の論考を多く載せた『子ども支援とSDGs』(明石書店)と『大都市制度をめぐる論点と政策検証』(日本評論社)を出版しました。今回の報告者は、その本に掲載された論文の著者です。



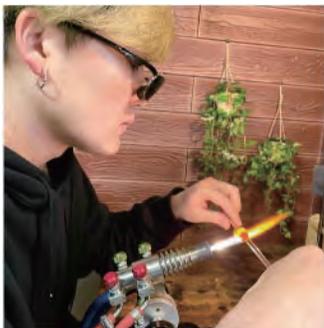
6/29 火
2021 18:30
-21:00

都市行政コース特別シンポジウム

「大阪のガラス作家とガラスペンの世界」

シンポ会場は大阪駅前第2ビル6F文化交流センターホールを予定、状況によりオンラインになることもあります。サイト <https://forms.office.com/r/6UpgLRNygJ> の「都市行政⑤」から必ずお申し込みください。こちらからご連絡します。連絡がいかない場合・お問合せは hisasue@osaka-cu.ac.jp

【趣旨】日本発祥の文房具「ガラスペン」が今、注目を集めている。明治時代末期に風鈴職人が考案したと伝えられるガラスペンは、繊細で美しいデザインと、インクの色交換が容易な点を特長とする。本シンポジウムでは、近年のガラスペン人気を支える若手ガラス作家の1人である金田裕樹氏に、ガラスペンの世界とその魅力についてお話を伺う。【基調講演】金田裕樹氏(ガラス作家、paraglass)【司会】久末弥生



【登壇者プロフィール】金田裕樹氏1997年大阪生まれ。2020年に近畿大学文芸学部芸術学科造形芸術専攻ガラスコース卒業後、きなりがらす京橋店にてエアパーナー、酸素パーナー講師として勤務。ガラス作家として文具女子博や百貨店等、イベント多数出店。



【司会】久末弥生(都市経営研究科教授)北海道大学大学院法学研究科博士後期課程修了・博士(法学)、フランス国立リモージュ大学大学院法学研究科正規留学、アメリカ合衆国テネシー州ノックスビル市名誉市民。単著『考古学のための法律』(日本評論社)、『都市計画法の探検』(法律文化社)、第25回国際公共経済学会賞受賞、『現代型訴訟の諸相』(成文堂)、編著『都市行政の最先端—法学と政治学からの展望』(日本評論社)他著書多数。



詳細は <https://www.gsum.osaka-cu.ac.jp/>

6/30 水
2021 18:30
-21:00

都市政策・地域経済コース特別シンポジウム 「自動運転とスマートシティによる地域課題解決を めざして」



シンポ開催形態はオンライン。サイト <https://forms.office.com/r/6UppLRNygJ> の「都市政策・地域経済④」から必ずお申し込みください。こちらからご連絡します。連絡がいかない場合・お問合せは konagaya@osaka-cu.ac.jp

【趣旨】2020年代に入り、現在の都市や地域は、(1) 高齢化時代の足の問題（通院や日常生活上の移動のオンデマンド化）、(2) 感染症時代におけるリモート化・個人化に対応し移動も大規模な公共交通から小規模の個人公共交通へ、(3) AI・5Gの普及によるDX(デジタル化)・新産業振興の必要性、(4) マイクロツーリズム（小規模観光）による地域活性化、などの課題に直面しており、人手不足の観点からも、自動運転、それを中心に組み込んだスマートシティ概念の普及が、多くの地域課題の解決にむけて期待されています。今回、単なる実証実験ではなく、この方向の現実の運用にむけて動き出した先進的な取り組みのご担当者に来ていただき、楽しくディスカッションをしたいと存じます【趣旨説明】



(永平寺町の取組み) 自動運転「ZEN drive」による地方創生。少子高齢化が進む地方の移動課題について、住民満足度の向上と財源確保の観点から取組を行う。技術の最先端ではなく、実用化の最先端を走り、持続可能な永平寺町モデルの構築を目指します。【ご挨拶】永平寺町課長 補佐 伊藤謙宏 (いとう あきひろ) 氏、【事業説明】同主査 山村徹 (やまむらとる) 氏

(河内長野市の取組み) 「地域住民が元気に生きがいを持ち、安心して住み続けられるまちづくり」本市南花台地区では、令和元年度より、手動の電動ゴルフカートを用いた地域住民主体による移動支援を進めています。令和3年度からは、自動運転技術を活用し運行負担軽減と安全性向上に取り組んでいます。【パネリスト】総合政策部 政策企画課 課長 谷ノ上浩久 (たにのうえ ひろひさ) 氏。1999年河内長野市役所入庁、都市建設部に配属。その後、大阪府都市整備部総合計画課への出向を経て、2013年に市長公室企画政策室(現総合政策部政策企画課)に配属。南花台地区のまちづくり(南花台スマートエイジングシティ 団地再生モデル事業)に発足時より携わる。



【ご挨拶】遠藤尚秀(都市経営研究科長) 関西学院大学大学院経営戦略研究科博士課程後期課程修了。博士(先端マネジメント)、公認会計士、英国勅許公認財務会計士。会計専門職大学院・自治大学校・福知山公立大学地域経営学部等で公会計論等について教鞭をとりつつ国家/地方公務員・地方議員向け研修、包括外部監査等に携わる。グッド・ガバナンスを参考にしつつ、地域経営論を研究。

(WILLER(株)の取組み) 高齢化時代の足の問題、リモート化・個人化に対応し移動も小規模の個人公共交通への2つの観点から「自動運転」と「AI オンデマンド」について、全国(京都、東京等)での取組みを紹介いたします【パネリスト】WILLER(株)MaaS Business Unit. MaaS Mobility Service Div. マネージャー 池あい子氏。

7/30 金
2021 19:00
-21:00

都市ビジネスコース特別シンポジウム 「中小企業 DX の未来の人材を創るーこどものロボット・プログラミング教育からデータマイニングビジネスまで」

シンポ会場は大阪駅前第2ビル6F文化交流センターホールを予定、状況によりオンラインになることもあります。サイト <https://forms.office.com/r/6UppLRNygJ> の「都市ビジネス④」から必ずお申し込みください。こちらからご連絡します。連絡がいかない場合・お問合せは chika@osaka-cu.ac.jp

【趣旨】昨今、企業のDX(デジタルトランスフォーメーション)が叫ばれている中、それを担える人材が中小企業にはいないことが大きな問題となっています。デジタル・ICT人材育成のために、小学校から中学・高校および大学のプログラム教育(データサイエンス教育)を文部科学省は本格化させつつあります。しかし、公教育では、教える教員数も限られており、民間のロボット・プログラミング教室やデータマイニングビジネスなどが大いに期待されています。そこで、ICT教育の発展の可能性とその課題を考えるシンポジウムを開催することとなりました。



【プログラム】< I 部発表 > 「デジタル人材育成とDXの重要性」(趣旨説明) 近勝彦。「ロボット・プログラミング教室の全国展開の意義とその課題」阪急東宝グループ・勝山裕子氏。

「教育ビジネスのデジタル化事業」(株)公文教育研究会・鈴木康宏氏。「ロボット・プログラミング教育を実践する」大阪日本語アカデミー理事長・新田悟朗氏。

< II 部討論会 > (司会進行) 梅原清宏。【参加者】教育ビジネスやDXまたはデジタル人材育成に関心のある方を歓迎します。



【パネリスト】勝山裕子氏。阪急阪神東宝グループの関連会社(株)ミマホーム・教育事業部でロボット・プログラミング教室を担当。関西を中心に教室を展開中です。

【パネリスト】鈴木康宏氏。日本最大の私塾・公文教育研究会(公文塾)のデジタル開発部門所属。当大学院都市経営科博士後期課程に在籍し、DXを研究しています。

【パネリスト】新田悟朗氏。大阪市平野区で外国語学校を運営するかたわら、ロボット・プログラミング教育を展開。当大学院の修了生です。

【趣旨説明】近勝彦(都市経営研究科・都市ビジネスコース教授) 情報経済論、e-マーケティング、ミクロ経済論などを担当しています。情報経済および情報社会を研究テーマとしています。『IT資本論』、『創造社会のデザイン』等著書多数。